

ココヘリ説明会資料



2023. 8. 24

AUTHENTIC JAPAN株式会社

会員制搜索ヘリサービス「ココヘリ」とは

●サービスの概略

①個人がココヘリに入会 → ②会員証(ID付発信機)発行 → ③登山に出掛ける
(入会金3300円+年会費5500円) (登山届提出)

→ ④不測の事態発生 → ⑤留守宅より搜索依頼
(道迷い・滑落等) (24時間・365日受付)

※本人・現場で携帯電話が通じる場合110/119番通報

→ ⑥民間ヘリ出動(搜索・救助550万円まで提供) → ⑦位置(座標取得)特定

☆天候等によりドローン搜索チームが出動

※搜索要請受電～出動～搜索状況は当該警察署と情報共有

→⑧特定した位置情報を当該救助組織(警察/消防)に通報します。

※吊り上げ等の直接救助作業は致しません。

※免責事項:位置特定を100%保証するものではありません。

●なぜ、ココヘリが必要か

現状：山岳遭難が発生すると捜索に膨大な時間と費用を費やしています。

一因として登山届を提出していない等、登山者側にも問題がありますが、登山届により捜索エリアを特定できても、人海戦術と空からの“目視”のために発見に至るまでには多くの時間を要しています。

発見に至らない場合もあります。

令和3年には3075人が遭難、内28人の方が行方不明となっています。

早期発見は生存率の向上及び捜索機関の経済的負担の軽減にも直結。

○未発見時の経済的リスク

遭難者は「失踪者」として扱われ、死亡認定が下りるまでの7年間もの間、ご家族は

①生命保険金・住宅ローンの債務弁済を受け取ることができません。

②会社も無断欠勤を理由に解雇され、退職金が支払われない場合もあります。

●より早く！確実に！「見つける」ための「機器の性能」

発信器＝会員証

- ・重量・・・20g/ポリカーボネート製
- ・電池寿命・・・約2.5ヶ月/スイッチONの状態
USB充電式・充電時間約2時間/リチウムイオン電池
- ・個別識別・・・IDにより個別識別　・防水性能・・・生活防水

探知距離

- ①ヘリからサーチ
 - ・通常受信機使用時 ➡ 3km～4km
 - ・専用ブーストアンテナ使用時 ➡ 最長16km
- ②ドローン＝専用アンテナ搭載によるサーチ ➡ 最長10Km
- ③地上サーチ ➡ ～1km/地形に大きく影響される。

電波減衰＝使用している電波は水中では伝わりません。

- ・ポーチや胸ポケット等に入れて身体の下敷き状態＝（人体の60%は水分）
- ・沢登りなどで会員証が水没状態

※雪中埋没時：2m程度までは電波減衰致しません。

● 捜索・救助について

当社は、2022年7月1日をもちまして
日本山岳救助機構合同会社(jRO)を完全子会社化致しました。

- ①ココヘリの新制度
- ②個人賠償責任補償 **最大1億円**が付帯
- ③アウトドア用品補償 **最大3万円**が付帯

☆探す+経済面で支える+リスクから守る=「ココヘリ」になりました。

● 登山計画書(登山届け)について

勤労者山岳連盟内又は山岳会で定められた提出ルールに従い、必ず提出してください。

提出の際には事案発生時に最初に「ココヘリ緊急コールセンター」へ通報する方(例:奥様等)とも共有して下さい。

通報受電時、最初に行うのは「登山計画書の有無」です。

・山域 ・山名 ・ルート ・日程等を把握して「捜索プラン」を立てます。

※登山計画書が無く、捜索エリアを特定する為に時間を要した事案もあります。また、警察への捜索要請時の受理も円滑になります。

☆注意事項

- ①計画変更時:通報する方(奥様等)へも変更を通知してください。
- ②日時の間違いに注意:日時の記入ミスによる出動事案もあります。

●事案発生から捜索要請・出動

下山予定日時を大きく過ぎても下山連絡が無い＝遭難が疑われる

ココヘリ緊急コールセンターへ架電(24時間・365日受付) ➡
 ココヘリ担当者より通報者へ架電 ➡ 登山計画書有無他状況ヒアリング
 ➡ 通報者に警察への捜索要請を依頼 ➡ ココヘリ担当者が警察とコンタクト
 ➡ 警察と捜索プランの共有 (同時に現地天候他リサーチ・民間ヘリ・ドローンサーチT・地上隊等の出動調整) ➡ 通報者とも情報共有 ➡
 出動 ➡ サーチ ➡ 発見! ➡ 絞り込み ➡ 座標特定 ➡ 救助隊(警察・消防)へ特定した座標を通報 …救助隊による救助
 ※ココヘリは直接の救助は行いません。

ココヘリの新制度

	今まで	これから
民間捜索救助組織の手配	ご家族がご自身で手配	ココヘリ事務局がすべて手配
捜索救助サービス	jROが費用を補てん 最大550万円まで	ココヘリが捜索を実施 最大550万円まで
捜索救助費用の立替	必要	不要

■個人賠償責任制度の対象が変更になりました■

《これまで》
発信機を携帯したアウトドア活動中に発生した事故

《これから》
発信機を携帯し、登山計画を提出した登山活動中※に発生した事故

※発信機を携帯し、登山届・登山計画の提出を行った場合に適用されます。
※スキー・バックカントリースキー・スノーボード・バックカントリースノーボード・スケート中は除きます。

●その他

・事例から

一定個所やエリアを除き、多くの山岳エリアは「携帯電話の圏外です」。

このことを知らない(登山未経験)の留守宅の方(奥様・父母等)が

☆午前中は携帯が通じたのに午後は通じなくなった。

☆LINEで逐一写真を送ってきたけど送ってこなくなった。電話をしても通じない。

☆山小屋に着いたとの連絡が無い……

ココヘリで安否を確認して欲しい(登山計画日程内)との通報が増えています。

通報される方の“心配”はいかばかりか想像に難くありません。

帰りを待つ人の為に、「多くの山岳エリアでは携帯が通じない事を事前にお伝えてしてください」・登山アプリの位置情報も正確にお伝えください。

●ココヘリ（発信機）を携行していれば早期解決に大きく寄与できます。

- ココヘリがお役立ちできた案件は、山岳遭難全体で見ればごく僅かです。
山岳遭難のニュースを見るたびに「ココヘリ」を持っていてくれたらな・・・と切に思います。
シーズン毎に繰り返される山菜取り、キノコ採りの方々の事故もしかりです。
- 現在（2023年7月末）ココヘリ正会員様は約8万名です。
まだまだ点の状態ではなっておりません。
事案解決のお役に立てずにおります。

一人でも多くの方にココヘリ会員になっていただき、「もしも」に備えていただきたく思います。

<事務局注釈>

オンライン講座で説明しましたスライドの一部(事例1~3)を削除しています。

理由は、講師より

「ホームページ掲載の際には削除してください…」

という依頼があったためです。